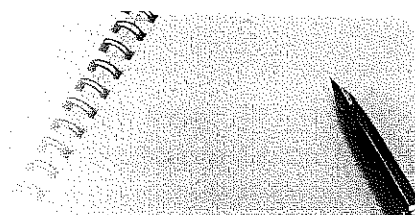


校長のひとり言



終業式

3月24日に平成26年度の終業式を行い、1年間の教育活動を終えた。終業式では、1年を振り返り、来年度に向けた取組について考えるよう訓示した。

内容は、振り返る際、「時間対効果」と「費用対効果」を観点に考えること。

全ての人に平等に与えられた1日24時間のサイクル。その中で過ごした学校生活に費やした貴重な時間における効果・成果はどのようにあったのか。例えば、受講登録した科目の単位が、計画通り修得できたのか。特別活動の出席時間は積み上げることができたのか。あるいは、勉強と仕事を両立させることができたのか。体調を回復させるために有効活用できたのか。

もう1点は、学校に登校(レポート提出、スクーリング、前後期試験受験含む)し、学習するためには、少なからず経費(お金)がかかる。授業料、通学ための交通費、文具代、郵券、通学のための洋服、食事代などが必要となる。実道高校で学ぶ自分に対して投資した経費に対して成果・効果はどのようにあったのか。

「時間」と「お金」について、今やるべき自分に課せられた使命は何なのか。「無駄」や「もったいない」は無かったのか。それを深く考え、来年度の学校生活に活かしてほしいと期待した。

準備と予測

3月10日に実施した平成27年度高校入学者選抜検査は、急激な寒波が入り込み、雪が舞うなど冷え込みの厳しい1日となった。受験生にとっては、学力検査と共に厳しい1日となったことである。

4月に入り、校地内のソメイヨシノ桜のつぼみはずいぶん膨らんで開花し始めている。気温の上昇とともに春が急速に進んでいることを感じる。美しい日本の四季に感激。

ところで3月は、学習状況や進路状況など1年間の教育活動のまとめや学校評価を行う。そして、今年度の教育活動の反省を踏まえ、来年度に向けた改善策を検討し、具体的な活動に向けた協議を進めながら準備する。

生徒が活動しやすく、そして教育効果が高まるよう工夫と改善を加えていく。これぞ学校組織としての準備である。何か行動起こす前に整えおくことが準備である。

私は、準備する際に心がけていることがある。それは、予測である。基本的な準備に加え、様々な変化を予測し対応できるようにして構えている。まさに充実した準備を目指そうと意識している。「準備と予測」である。

何かに対応しようとした時に、多くの予測した準備が整っていれば、慌てることなく落ち着いて対処できると考える。とっさに対応できなく、頭が真っ白になって、いい加減な対応しかできないと残念な結果を招くことになるからである。

多くの失敗、残念な結果を残さないためにも、内容ある準備に心がける必要がある。